OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	関西地区研究データ管理人材育成コンソーシアム キックオフ・シンポジウム
Author(s)	林, 和弘; 山地, 一禎; 甲斐, 尚人 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105945
rights	This article is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

研究データ管理支援【事例報告（大阪大学）】

大阪大学　D3センター・オープンサイエンス推進室
甲斐　尚人

本学のオープンサイエンス推進体制

オープンサイエンス推進室を中核に、研究データポリシーの策定、基盤連携・人材育成を全学横断で推進するとともに、実践部局におけるユースケースを通じて、研究データの公開・利活用に関する論点や課題の抽出・可視化を進めている。

◆ 研究推進本部 オープンサイエンス推進室

役割：オープンサイエンス推進、各実施項目の進捗管理 教員：8名、職員：3名	
室長	研究担当理事
副室長	D3センター 招へい教授
室員	① D3センター（図書館系）准教授 ② D3センター（ｻｲﾊﾞｰﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰ系）教授 ③ D3センター（ｻｲﾊﾞｰﾒﾃﾞｨｱｾﾝﾀｰ系）准教授 ④ D3センター（ﾃﾞｰﾀﾋﾞﾘﾃｨﾌﾛﾝﾃｨｱ機構系）教授 ⑤ 経営企画オフィス　教授 ⑥ コアファシリティ機構　教授 ⑦ 研究推進部長 ⑧ 情報推進部長 ⑨ 附属図書館事務部長 オープンサイエンス推進を支える**主要な事務組織として連携**
オブザーバー	・社会技術共創研究センター長・教授 ・共創機構　教授
事務担当	研究推進部研究企画課

◆ 基盤連携・人材育成の推進体制

理事・副学長（研究担当）

↓ 統括

研究推進本部 オープンサイエンス推進室 ― **主な事業・取組**
・研究データエコシステム構築事業
・オープンアクセス加速化事業 など

↓ 企画・調整

研究データ管理人材育成WG	
主査	オープンサイエンス推進室副室長
委員	D3センター、コアファシリティ機構、附属図書館、研究推進部、情報推進部
事務担当	附属図書館事務部

↕ 連携・知見共有・実証

実践部局・ユースケース実施部局

推進室関係部局、コアファシリティ機構、歯学部附属病院、人文学研究科、人間科学研究科　など

ポリシー策定①から、実務上の空白を埋める事例開発②へ

オープンサイエンス推進室を中心に研究データポリシーを策定し、公開・利活用に関する未整備の論点について、実践事例を通じて課題表出化を進めている。

① ポリシー策定

大阪大学研究データポリシー

- ●研究データ管理計画を策定する
- ●研究データを適切に取得・収集、保存する
- ●可能な限り研究データを社会に公開し、その利活用の促進に努める

※ポリシーでは、以下のルール等に従い、公開・利活用することを規定
（現行規定とのバッティングはなく現行規定を包括する文脈）

研究データの公開に関する法令・学内規則

個人情報保護法、外国為替及び外国貿易法、経済安全保障推進法、秘密保持契約、外国の知的財産法やEU一般データ保護規則などの個人情報の保護に関わる法規など

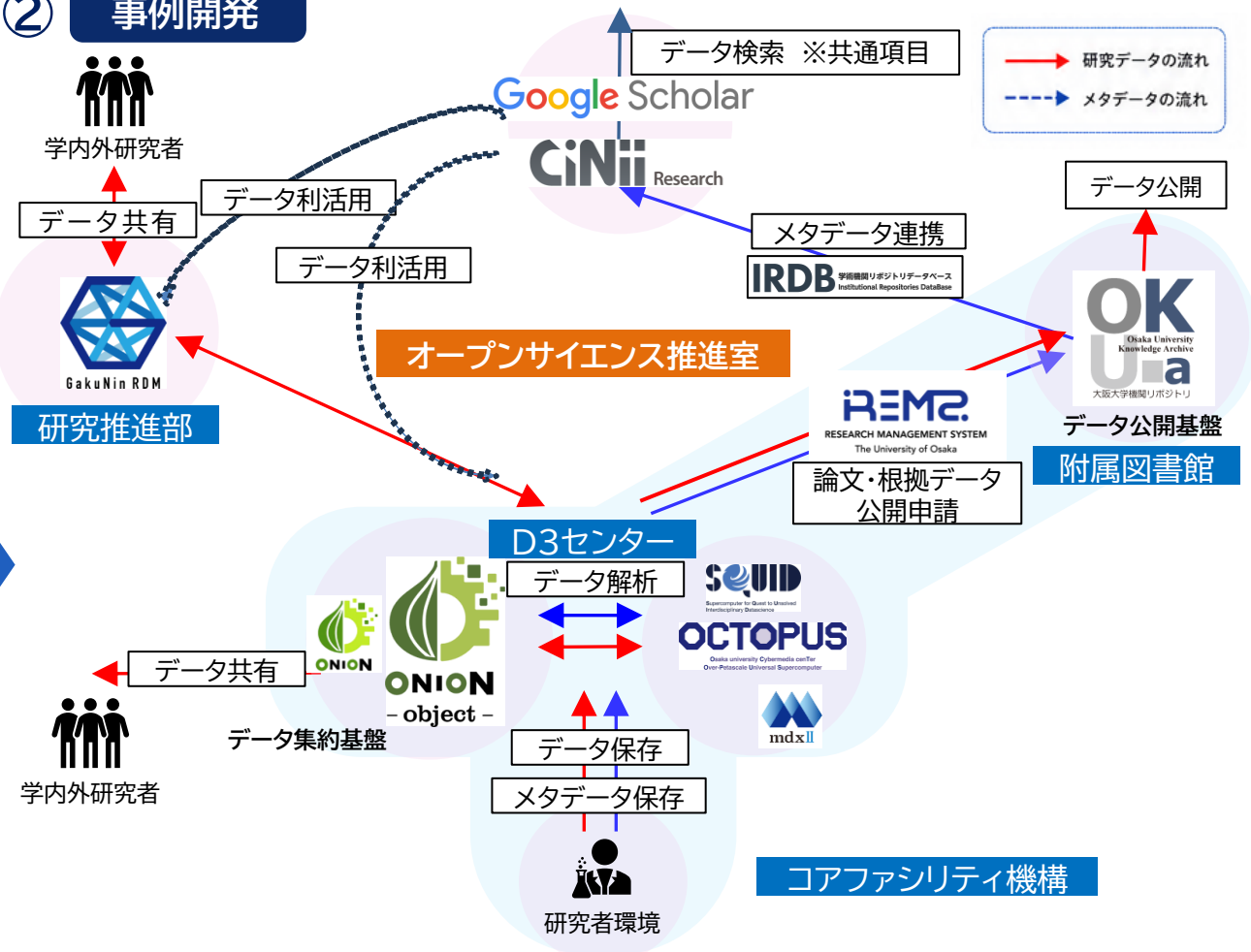
研究データの利活用に関する法令・学内規則

- **発明**：特許法、大阪大学発明規程
- **データベース**：著作権法
- **ノウハウ**：不正競争防止法（一部）
- **臨床研究データ**：薬機法・臨床研究法、大阪大学臨床研究データ利用、許諾等規程
- **研究成果有体物**：薬機法・臨床研究法、大阪大学研究成果有体物規程

- データの売買も研究者の自由？（大学の戦略に従う必要はない？）
- データ保存するも破棄するも自由？（研究不正が発生したときどうする？）
- 大学の戦略資源に成り得るデータも無償で公開していい？

空白部分のルール作りが課題
（オープンアンドクローズ戦略）

② 事例開発



- 研究マネジメント（図書館）：ONIONを起点にREMS・OUKAへ接続
- 質的データ（人間科学研究科）：ONIONに質的データを集約し、GRDM・OUKAと接続
- 測定データ（コアファシリティ機構・理学研究科）：測定機器からのデータをONIONに自動集約し、共有・解析環境へ接続
- センシティブデータ（歯学部附属病院）：ONIONを安全な集約先とし、解析環境へ接続

文科省公募事業「オープンアクセス加速化事業」によって開発

システム開発①により、研究者支援と支援人材の実践的育成②を同時に推進

REMSにより、DMP作成・OA対応・業績管理を一体的に支援するとともに、支援者が制度対応をシステム上で実践できる環境を整備した。

① 研究データ管理支援としてのREMS

研究者側の課題

・DMP、OA対応、業績登録が分散
・同じ情報を複数の画面・手続きで入力
・相談・確認がメール往復に依存

研究マネジメント総合支援システム

REMS RESEARCH MANAGEMENT SYSTEM The University of Osaka

制度対応をシステム上で実践・共有

- プロジェクト・DMP作成・更新
- 根拠データ保存・即時OA
- researchmap連携
- アンケート調査・IR

達成された支援

・支援手続きのワンストップ化
・重複入力・メール往復の削減
・支援情報の一体的な連携

学内の主要な研究データ管理支援部局が共同で設計・実装したことが、人材育成につながった

② 開発プロセスそのものが人材育成の場

REMS開発チーム（研究者を含む計10名）

研究者 3名 ： ニーズの起点・検証

教授｜コアファシリティ
准教授｜歯学部附属病院
准教授｜情報科学研究科

全体最適化 2名 ： 前後工程を見通して設計

准教授｜D3センター
特任専門職員｜附属図書館

支援専門性 5名 ： 制度・業務・技術を持ち寄る

課長補佐, 専門職員｜附属図書館 ／ 主任｜研究推進部
准教授｜OUDX ／ 専門職員｜情報推進部

① 全体最適化を担うジェネラリストDS型人材

研究者ニーズを汲み取り、前後工程を見通して全体を設計
准教授｜D3センター ／ 特任専門職員｜附属図書館

② 隣接領域スペシャリストの連携・育成

制度・業務・技術の専門性をつなぎ、境界知識を共有
図書館・研究推進・OUDX・情報推進の5名

体系的な教材整備により、支援人材を育成

基礎編・実践編の教材を整備し、全職種共通のRDM理解から、分野別・データ種別の実践的支援までをカバーする人材育成環境を構築

（RDM基礎編教材の開発・展開状況）

政策・制度など	教材タイトル	教材内容	教材展開状況（2026年3月時点）	
			受講者数・アクセス数など	リポジトリ
オープンサイエンス・RDM	オープンサイエンス時代における研究データ管理基礎（全職種共通） 開発・公開済み	研究データのライフサイクルに沿って，研究データ管理の目的と全体像，各段階において分野に共通する留意点などを解説する。	• 新任教員研修受講者数 **146名** • OUKAアクセス数 **2,835件** • 学認LMS受講者数 **76機関578名** • JPCOARアクセス数 **3,851件** • 英語版 ・OUKAアクセス数 **1,013件** • 「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業 ＋αシリーズvol.35」 **156名**	https://hdl.handle.net/11094/101413
	図書館職員向け 開発済み・公開準備中	標準スキル表に基づき改修	• 附属図書館OSWGに試験的に展開	
	情報推進職員向け 開発中	標準スキル表に基づき改修	—	
データ管理計画（DMP）	研究データ管理計画（DMP）とは 開発・公開済み	資金配分機関が研究者に求めるDMP について，その目的，構成要素，要求事項など解説するとともに，記入する際のポイントなどを例示する。	• オープンサイエンス推進室HPで公開中 • 私立医科大学協会 令和7年度第1回研究支援推進委員会 **約100名** など	https://osoa-portal.osaka-u.ac.jp/data-management/dmp-what/
データ処理（Python）	研究データに関わる研究・教育支援人材向けPython 活用基礎研修 開発・公開済み	Python プログラミングの基礎を扱い，データの整理・分析・可視化の基本手法を解説し，研究データ管理および研究支援業務におけるデータ処理能力の向上を支援する。	• OUKAアクセス数 **73件** • 講義動画・PDF：阪奈機器利用ネットワーク SHARE The Resources • Python 活用基礎研修受講者数 **55名**	https://hdl.handle.net/11094/104304
オープンアクセス	オープンアクセスを巡る状況と大阪大学におけるオープンアクセス支援 開発・公開済み	オープンアクセスの目的や方策，著作権とライセンスに関する基本事項，機関リポジトリへの登録方法などを解説する。	• 新任教員研修受講者数 **94名** • OUKAアクセス 150**件** • 九州大学RDM支援ワークショップ「第1回: リポジトリシステムでのデータ公開」 **35名** など	https://doi.org/10.18910/102690

RDM実践編教材の開発・展開状況

データタイプ	代表的対象分野	教材タイトル	教材内容	教材展開状況（2026年3月時点）	
				受講者数・アクセス数など	リポジトリ
実験データ（画像・テキスト）	測定科学（化学） 開発・公開済み	実験系研究データ管理の実践（研究者向け・管理者向け）	実験ノート，測定データ，装置出力データ等の取得・整理・保存・共有方法を扱い，再現性確保および長期保存を見据えたデータ管理手法を解説する。	• OUKAアクセス数　**510件** • 小規模分析室測定データ集約配信システム導入支援	https://hdl.handle.net/11094/97150
テキストデータ	質的社会科学（フィールドワーク） 開発・公開済み	エスノグラフィの研究データ管理入門：オープンサイエンス時代のなかで	参与観察（エスノグラフィ）によるデータの取得・収集および保存・共有を中心に，倫理的配慮を含めた実践的手法を扱う。	• OUKAアクセス数　**2,160件** • 学会報告資料　アクセス数**156件** • エスノグラフィ・ラボ研究室学生試験展開　**8名** • 大学院講義（フィールド調査法特講）**33名**	https://doi.org/10.18910/104332
	デジタル・ヒューマニティーズ（特別コレクション） 開発・公開済み	人文学研究者必見! テキストデータとTEI で描く新たな研究ビジョン	TEI 技術を用いたテキストのアノテーションおよび分析方法を解説し，人文学資料の構造化と再利用可能性の向上を目指す。	• OUKAアクセス数　**954件** • CLE受講者数　**34名** • 英語版　（OUKA・**136件**、CLE未） • 大学院講義	https://doi.org/10.18910/101978
画像データ	デジタル・ヒューマニティーズ（特別コレクション） 開発・公開済み	人文学研究者必見！ 研究データ管理ことはじめ：OUKA で始めるIIIF 画像の公開と利活用	IIIF 規格に基づく高精細画像化，メタデータ整備，公開・利活用の方法を扱い，文化資源のデジタル化と長期保存を支援する。	• OUKAアクセス数　**1,783件** • CLE受講者数　**94名** • 英語版　（OUKA・**112件**、CLE未） • 大学院講義	https://doi.org/10.18910/97757
WEBデータ	デジタル人類学 開発・公開済み	デジタルメソッドの説明書：ハイパーリンク・エスノグラフィ篇	スクレイピング技術を用いた画像・テキストデータの取得・収集および加工・分析方法を扱い，研究利用に際しての法的・倫理的留意点もあわせて解説する。	• OUKAアクセス数　**166件** • 「人文学とデジタル技術」（人文学研究科）　**102名** • 「外国語学部生のためのデジタルツール（A）」（外国語学部）：　**76名**	https://doi.org/10.18910/103994
統計データ・位置データ（ビッグデータ）	量的社会科学（統計学） 開発中	実験・調査データ管理の実践：量的社会科学研究における研究データ管理	実験・調査により取得される意思決定データ，属性データ，プロセスデータ等を例に，研究データライフサイクルに沿った実践的手法を解説する。	• OUKA（予定） • CLE（予定）	

相談窓口を通じて、現場の課題を把握する仕組みを整備

ポータルサイトを入口として、研究者からの相談を集約し、研究推進部・情報推進部・附属図書館・D3センター等が連携して対応する体制を構築した

情報提供と相談受付の入口

大阪大学オープンサイエンス推進室ポータルサイト

https://osoa-portal.osaka-u.ac.jp/



オープンサイエンス　オープンアクセス　研究データ管理　教材提供　お問い合わせ

- 教材、制度、学内手続きに関する相談窓口を一元化
- 問い合わせフォームを通じて支援ニーズを把握

1 相談受付
ポータルの
お問い合わせ
フォームから
受け付け

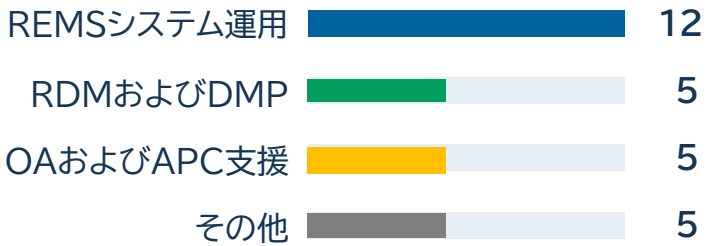
2 担当へ振り分け
実務部門
研究推進部・
附属図書館
教員組織
D3センター・
コアファシリティ機構・
附属図書館

3 回答・支援
担当部署・組織から
回答・支援を提供し、
必要に応じてフォロー

1年間の相談実績

27件

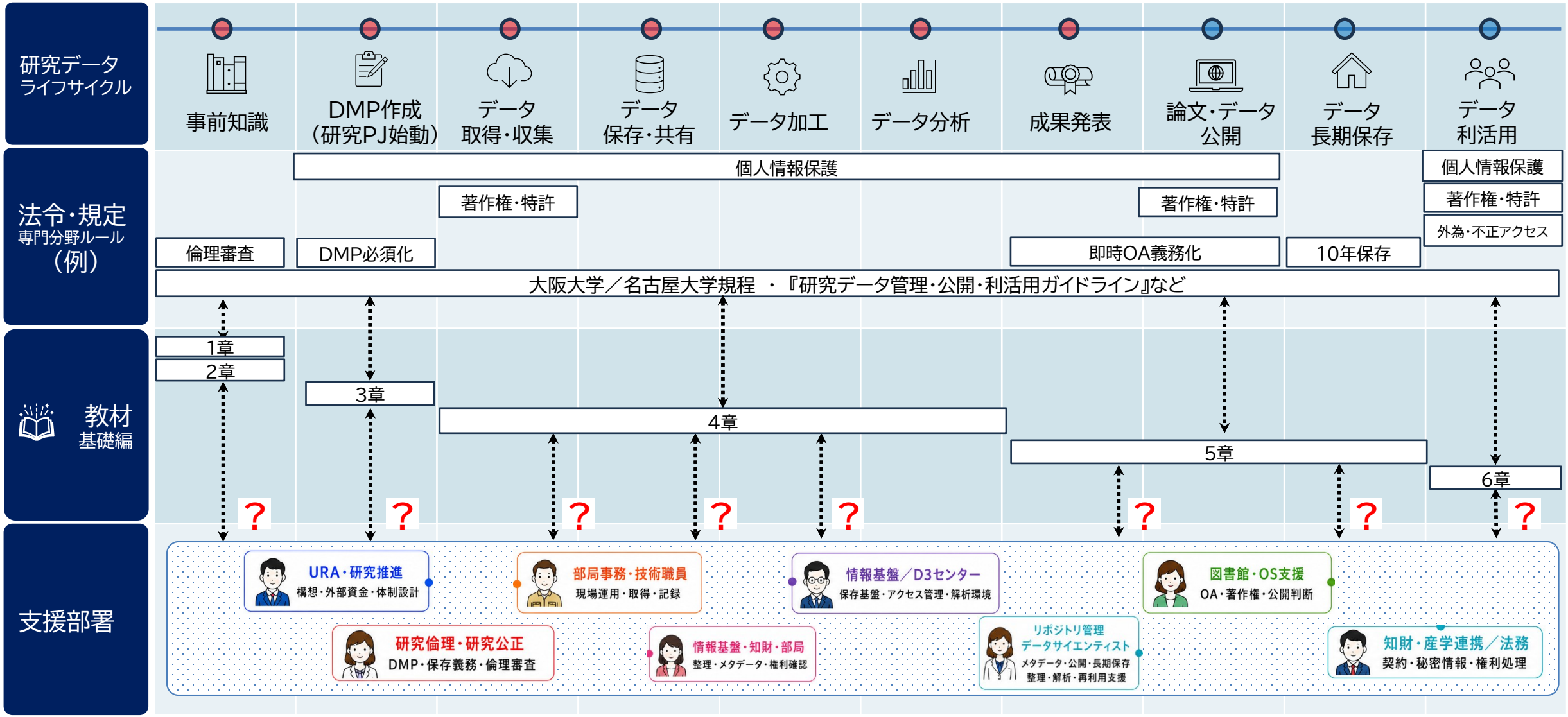
**ポータルサイトの
お問い合わせ経由**
RDM・OA・学内システム
等の実務相談



DMP、GakuNin RDM/JAIRO Cloud、
Green OA・著作権相談

教材と法令・規程・ガイドライン、支援人材の連関可視化～名古屋大学との連携～

名古屋大学との連携により整理した法令・規程・ガイドライン・教材の対応関係を踏まえ、研究者・研究支援者が、研究データ管理に関する初めての課題や複合的な課題に直面した際に、学内のどの部署（部・課・係）と相談・連携すべきかを可視化した整理表（羅針盤）を作成する。



各取組みの詳細について

- 甲斐尚人. (2026). 研究データ管理を支える専門的実践人材およびデータスチュワード型人材の体系的育成. 情報の科学と技術, 76(5), 243–248.
- 甲斐尚人, 佐藤雅也. (2026). 知的生産の担い手の再定義――日本の研究支援現場における暗黙知とデータスチュワード的実践. 科学哲学, 58(2).
- 甲斐尚人, 佐藤雅也, 山本侑子, 西森哲也, 喜多真一, 永濱多恵子, 小川美祐, 神崎隼人, 廣森聡仁, 野﨑一徳, 古谷浩志, 釜池聡太, 鎗水徹. (2026). 大阪大学における研究成果公開と研究業績集積のための統合基盤の構築――機関リポジトリOUKAの高度化と研究マネジメント総合支援システムの開発. 情報処理学会論文誌 デジタルプラクティス, 7(2).
- ヴルガリス ニコラオス, 神崎隼人, 白井詩沙香, 甲斐尚人. (2026). 大阪大学における研究データ管理教育の展開と実践的人材育成の展望, ベルリン自由大学との協働に向けて. 情報の科学と技術, 76(1), 33–38.
- 神崎隼人, 甲斐尚人. (2025). 分配者から協働生産者へ――新たな知識のエコノミーに向けた機関リポジトリOUKAの実験. 現代の図書館, 63(1), 47–54.
- Nagaoka, C., Furukawa, M., Sun, Y., Kai, N., Kanzaki, H., Shirai, S., Yamaji, K. (2025). Development of learning path visualization function and personalized learning function for skill-based OER learning. In EDULEARN25 Proceedings (Vol. 1, pp. 8561–8567)
- 村田忠彦, 甲斐尚人. (2025). データ駆動型大学を目指す大阪大学における研究データ管理・利活用. サイバーメディアHPCジャーナル, (15), 1–7.
- Morimoto, A., Oka, S., Seino, Y., Nambu, E., Kai, N., Tanushi, H., Date, S., Nozaki, K. (2024). Clinical scientific activities at Osaka University Dental Hospital promoting open science [Conference presentation]. Pacific Rim Applications and Grid Middleware Assembly 40 (PRAGMA 40).
- 田主英之, 山下晃弘, 細見岳生, 並木悠太, 甲斐尚人, 松浦かんな, 伊達進. (2023). 研究データ管理を支える学内情報基盤連携の実現に向けて. 学術情報処理研究, 27(1), 98–105.

関係者の皆様に心より感謝申し上げます